

演習問題 5.7 命題 5.14 を示せ。

(1) $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ または $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ とする。平面のベクトルの場合は

$$(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = x^2 + y^2 \geq 0$$

であり、空間のベクトルの場合は

$$(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = x^2 + y^2 + z^2 \geq 0$$

なので、いずれの場合も $(\mathbf{x}, \mathbf{x}) \geq 0$ が成立している。

$(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = 0$ のとき、平面のベクトルの場合は

$$(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = x^2 + y^2 = 0$$

から $x = y = 0$ となり、また空間のベクトルの場合は

$$(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = x^2 + y^2 + z^2 = 0$$

から $x = y = z = 0$ となるので、いずれの場合も $\mathbf{x} = \mathbf{0}$ が成立している。

(2) $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix}$ または $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} x' \\ y' \\ z' \end{pmatrix}$ とする。平面のベクトルの場合は

$$(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = xx' + yy' = x'x + y'y = (\mathbf{y}, \mathbf{x})$$

であり、空間のベクトルの場合は

$$(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = xx' + yy' + zz' = x'x + y'y + z'z = (\mathbf{y}, \mathbf{x})$$

となるので、いずれの場合も $(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = (\mathbf{y}, \mathbf{x})$ が成立している。

(3) $\mathbf{z} = \begin{pmatrix} x'' \\ y'' \end{pmatrix}$ または $\mathbf{z} = \begin{pmatrix} x'' \\ y'' \\ z'' \end{pmatrix}$ とする。

(1) 平面のベクトルの場合は

$$\begin{aligned} (\mathbf{x} + \mathbf{y}, \mathbf{z}) &= (x + x')x'' + (y + y')y'' \\ &= xx'' + x'x'' + yy'' + y'y'' \\ &= xx'' + yy'' + x'x'' + y'y'' \\ &= (\mathbf{x}, \mathbf{z}) + (\mathbf{y}, \mathbf{z}) \end{aligned}$$

であり，空間のベクトルの場合は

$$\begin{aligned}(\mathbf{x} + \mathbf{y}, \mathbf{z}) &= (x + x')x'' + (y + y')y'' + (z + z')z'' \\ &= xx'' + x'x'' + yy'' + y'y'' + zz'' + z'z'' \\ &= xx'' + yy'' + zz'' + x'x'' + y'y'' + z'z'' \\ &= (\mathbf{x}, \mathbf{z}) + (\mathbf{y}, \mathbf{z})\end{aligned}$$

なので，いずれの場合も $(\mathbf{x} + \mathbf{y}, \mathbf{z}) = (\mathbf{x}, \mathbf{z}) + (\mathbf{y}, \mathbf{z})$ が成立している。

(2) 平面のベクトルの場合は

$$(a\mathbf{x}, \mathbf{y}) = axx' + ayy' = a(xx' + yy') = a(\mathbf{x}, \mathbf{y})$$

であり，空間のベクトルの場合は

$$(a\mathbf{x}, \mathbf{y}) = axx' + ayy' + azz' = a(xx' + yy' + zz') = a(\mathbf{x}, \mathbf{y})$$

なので，いずれの場合も $(a\mathbf{x}, \mathbf{y}) = a(\mathbf{x}, \mathbf{y})$ が成立している。

(4) 余弦定理より

$$|\mathbf{x} - \mathbf{y}|^2 = |\mathbf{x}|^2 + |\mathbf{y}|^2 - 2|\mathbf{x}||\mathbf{y}|\cos\theta$$

が成立している。このとき

$$\begin{aligned}|\mathbf{x} - \mathbf{y}|^2 &= (\mathbf{x} - \mathbf{y}, \mathbf{x} - \mathbf{y}) = (\mathbf{x}, \mathbf{x} - \mathbf{y}) + (-\mathbf{y}, \mathbf{x} - \mathbf{y}) \\ &= (\mathbf{x}, \mathbf{x}) + (\mathbf{x}, -\mathbf{y}) + (-\mathbf{y}, \mathbf{x}) + (-\mathbf{y}, -\mathbf{y}) \\ &= (\mathbf{x}, \mathbf{x}) - 2(\mathbf{x}, \mathbf{y}) + (\mathbf{y}, \mathbf{y}) \\ &= |\mathbf{x}|^2 + |\mathbf{y}|^2 - 2(\mathbf{x}, \mathbf{y})\end{aligned}$$

なので

$$(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = |\mathbf{x}||\mathbf{y}|\cos\theta$$

が成立する。

\mathbf{x} および \mathbf{y} が直交しているとき， $\theta = \frac{\pi}{2}$ なので $(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = 0$ となる。逆に $(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = 0$ のとき $|\text{vec}\mathbf{x}| = 0$ または $|\mathbf{y}| = 0$ または $\cos\theta = 0$ である。 \mathbf{x} または \mathbf{y} がゼロベクトルのときは定義により直交している。 \mathbf{x} および \mathbf{y} がともにゼロベクトルでないときは $\cos\theta = 0$ なので $\theta = \frac{\pi}{2}$ となり，やはり直交している。

演習問題 5.8 命題 5.14 の内積の性質 (2)，(3) から 2 番目の成分に関する線型性，すなわち

(5) 任意のベクトル $\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z}$ に対し $(\mathbf{x}, \mathbf{y} + \mathbf{z}) = (\mathbf{x}, \mathbf{y}) + (\mathbf{x}, \mathbf{z})$ ，および

(6) 任意の実数 α と任意のベクトル \mathbf{x}, \mathbf{y} に対し $(\mathbf{x}, \alpha\mathbf{y}) = \alpha(\mathbf{x}, \mathbf{y})$

が成立することを示せ。

(5)

$$\begin{aligned}(\mathbf{x}, \mathbf{y} + \mathbf{z}) &= (\mathbf{y} + \mathbf{z}, \mathbf{x}) \\ &= (\mathbf{y}, \mathbf{x}) + (\mathbf{z}, \mathbf{x}) \\ &= (\mathbf{x}, \mathbf{y}) + (\mathbf{x}, \mathbf{z})\end{aligned}$$

となり成立する。

(6)

$$\begin{aligned}(\mathbf{x}, a\mathbf{y}) &= (a\mathbf{y}, \mathbf{x}) \\ &= a(\mathbf{y}, \mathbf{x}) \\ &= a(\mathbf{x}, \mathbf{y})\end{aligned}$$

となり成立する。

演習問題 5.9 命題 5.16 を示せ。

(1)

$$(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = x_1^2 + \cdots + x_n^2 \geq 0$$

となる。また $x_1^2 + \cdots + x_n^2 = 0$ のときすべての i に対し $x_i = 0$ となるので、 $\mathbf{x} = \mathbf{0}$ となる。

(2)

$$\begin{aligned}(\mathbf{x}, \mathbf{y}) &= x_1y_1 + \cdots + x_ny_n \\ &= y_1x_1 + \cdots + y_nx_n \\ &= (\mathbf{y}, \mathbf{x})\end{aligned}$$

となり成立している。

(3) $\mathbf{z} = \begin{pmatrix} z_1 \\ \vdots \\ z_n \end{pmatrix}$ とする。

(1)

$$\begin{aligned}(\mathbf{x} + \mathbf{y}, \mathbf{z}) &= (x_1 + y_1)z_1 + \cdots + (x_n + y_n)z_n \\ &= x_1z_1 + y_1z_1 + \cdots + x_nz_n + y_nz_n \\ &= x_1z_1 + \cdots + x_nz_n + y_1z_1 + \cdots + y_nz_n \\ &= (\mathbf{x}, \mathbf{z}) + (\mathbf{y}, \mathbf{z})\end{aligned}$$

となり成立している。

(2)

$$\begin{aligned}(a\mathbf{x}, \mathbf{y}) &= ax_1y_1 + \cdots + ax_ny_n \\ &= a(x_1y_1 + \cdots + x_ny_n) \\ &= a(\mathbf{x}, \mathbf{y})\end{aligned}$$

となり成立している。

演習問題 5.10 演習問題 5.8 と同様に \mathbb{R}^n の場合も 2 番目の成分に関して線型性をもつ。すなわち次が成立する。この事を証明せよ。

(1) 任意の $\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z} \in \mathbb{R}^n$ に対し $(\mathbf{x}, \mathbf{y} + \mathbf{z}) = (\mathbf{x}, \mathbf{y}) + (\mathbf{x}, \mathbf{z})$ が成立する。

(2) 任意の $x, y \in \mathbb{R}^n$ と任意の実数 $a \in \mathbb{R}$ に対し $(x, ay) = a(x, y)$ が成立する。

(1)

$$\begin{aligned}(x, y + z) &= (y + z, x) \\ &= (y, x) + (z, x) \\ &= (x, y) + (x, z)\end{aligned}$$

となり成立する。

(2)

$$\begin{aligned}(x, ay) &= (ay, x) \\ &= a(y, x) \\ &= a(x, y)\end{aligned}$$

となり成立する。

証明が演習問題 5.8 と全く同じであることに注意。成分に依存しない証明は次元によらず適用可能な場合が多い。

演習問題 5.11 Schwarz の不等式から次の 3 角不等式を導け; 任意の $x, y \in \mathbb{R}^n$ に対し

$$\|x + y\| \leq \|x\| + \|y\|$$

が成立する。

$$\begin{aligned}\|x + y\|^2 &= (x + y, x + y) \\ &= (x, x + y) + (y, x + y) \\ &= (x, x) + (x, y) + (y, x) + (y, y) \\ &= (x, x) + 2(x, y) + (y, y) \\ &= \|x\|^2 + 2(x, y) + \|y\|^2\end{aligned}$$

であるが, シュワルツの不等式により

$$(x, y) \leq \|x\|\|y\|$$

が成立するので

$$\|x + y\|^2 \leq \|x\|^2 + 2\|x\|\|y\| + \|y\|^2 = (\|x\| + \|y\|)^2$$

を得る。これより与式が示される。

演習問題 5.12

(1) $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}$ のそれぞれと直交し長さ 1 の 4 項数ベクトル x を求めよ。

(2) $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ のそれぞれと直交し長さ 1 の 5 項数ベクトル x を求めよ。

(1) ベクトル x を $x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix}$ とおく。 $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ と直交しているので

$$\left(\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \right) = 1x + 1y + 0z + 0w = x + y = 0$$

である。同様に

$$\begin{aligned} x + y + z + w &= 0 \\ x + 2y + 3z + 4w &= 0 \end{aligned}$$

が成立している。これより $x = w, y = -w, z = -w$ を得るので $x = \begin{pmatrix} w \\ -w \\ -w \\ w \end{pmatrix}$ の形をしている。

x の長さは 1 なので

$$\|x\|^2 = w^2 + (-w)^2 + (-w)^2 + w^2 = 4w^2 = 1$$

より $w = \pm \frac{1}{2}$ となる。よって求めるベクトルは

$$x = \pm \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

である。

(2) ベクトル x を $x = \begin{pmatrix} u \\ v \\ w \\ x \\ y \end{pmatrix}$ とおく。 $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ と直交しているので

$$\left(\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} u \\ v \\ w \\ x \\ y \end{pmatrix} \right) = 1u + 1v + 1w + 0x + 0y = u + v + w = 0$$

である。同様に

$$\begin{aligned}u + v + w + x + y &= 0 \\u + 2v + 3w + 4x + 5y &= 0 \\u + 2v + w + 2x + y &= 0\end{aligned}$$

が成立している。これより $u = 0, v = y, w = -y, x = -y$ を得るので $x = \begin{pmatrix} 0 \\ y \\ -y \\ -y \\ y \end{pmatrix}$ の形をしてい

る。 x の長さは 1 なので

$$\|x\|^2 = 0^2 + y^2 + (-y)^2 + (-y)^2 + y^2 = 4y^2 = 1$$

より $y = \pm \frac{1}{2}$ となる。よって求めるベクトルは

$$x = \pm \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

である。

演習問題 5.13 定理 5.19 の証明で 1 次独立性を使っていないように見えるが、実はそのことは使われている。どの部分に使われているか指摘せよ。

v_1 と v_2 が 1 次独立でないとき $y_2 = v_2 - (v_2, x_1)x_1 = 0$ になる。よって $\|y_2\|$ は 0 になるので、 $\|y_2\|$ で割ることはできない。一般の場合も同様に v_1, \dots, v_{k-1} が 1 次独立で、 v_1, \dots, v_k が 1 次独立でないとき $y_k = v_k - \sum_{i=1}^{k-1} (v_k, x_i)x_i = 0$ になるので、 $\|y_k\|$ で割り算を実行することができない。

演習問題 5.14 次のベクトルの組からシュミットの直交化法を用いて正規直交系をつくれ。

$$\begin{aligned}(1) & \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix} & (2) & \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} \\(3) & \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix}\end{aligned}$$

それぞれのベクトルを順に v_1, \dots, v_3 または v_1, \dots, v_4 とする。

(1)

$$\|v_1\| = \sqrt{1^2 + 1^2 + 1^2} = \sqrt{3}$$

なので

$$x_1 = \frac{1}{\sqrt{3}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

である。 $(v_2, x_1) = \frac{1}{\sqrt{3}} (1 \times 1 + 2 \times 1 + 1 \times 1) = \frac{4}{\sqrt{3}}$ なので

$$\begin{aligned} y_2 &= v_2 - (v_2, x_1)x_1 \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix} - \frac{4}{\sqrt{3}} \frac{1}{\sqrt{3}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となる。よって

$$x_2 = \frac{1}{\|y_2\|} y_2 = \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix}$$

である。 $(v_3, x_1) = \frac{1}{\sqrt{3}} (2 \times 1 + 1 \times 1 + 3 \times 1) = \frac{6}{\sqrt{3}}$, $(v_3, x_2) = \frac{1}{\sqrt{6}} (2 \times (-1) + 1 \times 2 + 3 \times (-1)) = -\frac{3}{\sqrt{6}}$ なので

$$\begin{aligned} y_3 &= v_3 - (v_3, x_1)x_1 - (v_3, x_2)x_2 \\ &= \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix} - \frac{6}{\sqrt{3}} \frac{1}{\sqrt{3}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} - \left(-\frac{3}{\sqrt{6}}\right) \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となる。よって

$$x_3 = \frac{1}{\|y_3\|} y_3 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

である。

(2)

$$\|v_1\| = \sqrt{1^2 + 1^2 + 1^2 + 1^2} = 2$$

なので

$$x_1 = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

である。 $(v_2, x_1) = \frac{1}{2}(1 \times 1 + 0 \times 1 + 1 \times 1 + 0 \times 1) = 1$ なので

$$\begin{aligned} y_2 &= v_2 - (v_2, x_1)x_1 \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} - 1 \times \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となる。よって

$$x_2 = \frac{1}{\|y_2\|} y_2 = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

である。 $(v_3, x_1) = \frac{1}{2}(1 \times 1 + 1 \times 1 + 1 \times 1 + 0 \times 1) = \frac{3}{2}$,

$(v_3, x_2) = \frac{1}{2}(1 \times 1 + 1 \times (-1) + 1 \times 1 + 0 \times (-1)) = \frac{1}{2}$ なので

$$\begin{aligned} y_3 &= v_3 - (v_3, x_1)x_1 - (v_3, x_2)x_2 \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} - \frac{3}{2} \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} - \frac{1}{2} \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となる。よって

$$x_3 = \frac{1}{\|y_3\|} y_3 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$$

である。

(3)

$$\|v_1\| = \sqrt{1^2 + 1^2 + 1^2 + 1^2} = 2$$

なので

$$x_1 = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

である。 $(v_2, x_1) = \frac{1}{2}(0 \times 1 + 1 \times 1 + 0 \times 1 + 1 \times 1) = 1$ なので

$$\begin{aligned} y_2 &= v_2 - (v_2, x_1)x_1 \\ &= \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} - 1 \times \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となる。よって

$$x_2 = \frac{1}{\|y_2\|} y_2 = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

である。 $(v_3, x_1) = \frac{1}{2}(0 \times 1 + 1 \times 1 + 1 \times 1 + 1 \times 1) = \frac{3}{2}$,

$(v_3, x_2) = \frac{1}{2}(0 \times (-1) + 1 \times 1 + 1 \times (-1) + 1 \times 1) = \frac{1}{2}$ なので

$$\begin{aligned} y_3 &= v_3 - (v_3, x_1)x_1 - (v_3, x_2)x_2 \\ &= \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} - \frac{3}{2} \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} - \frac{1}{2} \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となる。よって

$$x_3 = \frac{1}{\|y_3\|} y_3 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

である。

$$(v_4, x_1) = \frac{1}{2}(1 \times 1 + 2 \times 1 + 3 \times 1 + 4 \times 1) = 5,$$

$$(v_4, x_2) = \frac{1}{2}(1 \times (-1) + 2 \times 1 + 3 \times (-1) + 4 \times 1) = 1,$$

$$(v_4, x_3) = \frac{1}{\sqrt{2}}(1 \times (-1) + 2 \times 0 + 3 \times 1 + 4 \times 0) = \sqrt{2} \text{ なので}$$

$$\begin{aligned} y_4 &= v_4 - (v_4, x_1)x_1 - (v_4, x_2)x_2 - (v_4, x_3)x_3 \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{pmatrix} - 5 \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} - 1 \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix} - \sqrt{2} \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となる。よって

$$\mathbf{x}_4 = \frac{1}{\|\mathbf{y}_4\|} \mathbf{y}_4 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

である。

演習問題 5.15 次の行列 A で表現される線型写像を与えられた基底で表現した場合の行列を求めよ。

$$(1) A = \begin{pmatrix} 4 & -2 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$(2) A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ -1 & 4 & -1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$$

$$(3) A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_1 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_2 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

(1) 成分に分けて議論する方法と、行列のまま考える方法の 2 通りの方法で解く。

ベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ が $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ を用いて

$$\mathbf{x} = a_1 \mathbf{x}_1 + a_2 \mathbf{x}_2$$

と書けるとき

$$\mathbf{x} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix}$$

と表した。このとき

$$\begin{aligned} x_1 \mathbf{e}_1 + x_2 \mathbf{e}_2 &= \mathbf{x} = a_1 \mathbf{x}_1 + a_2 \mathbf{x}_2 \\ &= a_1(\mathbf{e}_1 + \mathbf{e}_1) + a_2(2\mathbf{e}_1 + \mathbf{e}_2) \\ &= (a_1 + 2a_2)\mathbf{e}_1 + (a_1 + a_2)\mathbf{e}_2 \end{aligned}$$

より

$$x_1 = a_1 + 2a_2, \quad x_2 = a_1 + a_2$$

という関係がある。

$$\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} = T_A(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$$

とすると

$$y_1 = 4x_1 - 2x_2, \quad y_2 = x_1 + x_2$$

なる関係がある。また $\mathbf{y} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \end{bmatrix}$ と表したとき, \mathbf{x} のときと同様に計算すれば

$$y_1 = b_1 + 2b_2, \quad y_2 = b_1 + b_2$$

が得られる。これを逆に解くと

$$b_1 = 2y_2 - y_1, \quad y_2 = y_1 - y_2$$

が得られる。よって

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \end{bmatrix} &= \begin{bmatrix} 2y_2 - y_1 \\ y_1 - y_2 \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} 2(x_1 + x_2) - (4x_1 - 2x_2) \\ (4x_1 - 2x_2) - (x_1 + x_2) \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} -2x_1 + 4x_2 \\ 3x_1 - 3x_2 \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} -2(a_1 + 2a_2) + 4(a_1 + a_2) \\ 3(a_1 + 2a_2) - 3(a_1 + a_2) \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} 2a_1 \\ 3a_2 \end{bmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

より求める表現行列は $\begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 3 \end{pmatrix}$ である。

次に行列のまま考えて解いてみよう。 $T_A(\mathbf{x}_1) = A\mathbf{x}_1 = 2\mathbf{x}_1$, $T_A(\mathbf{x}_2) = A\mathbf{x}_2 = 3\mathbf{x}_2$ であることに注意しておく。

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \end{bmatrix} &= \mathbf{y} = T_A(\mathbf{x}) \\ &= T_A(a_1\mathbf{x}_1 + a_2\mathbf{x}_2) \\ &= a_1T_A(\mathbf{x}_1) + a_2T_A(\mathbf{x}_2) \\ &= a_12\mathbf{x}_1 + a_23\mathbf{x}_2 \\ &= 2a_1\mathbf{x}_1 + 3a_2\mathbf{x}_2 \\ &= \begin{bmatrix} 2a_1 \\ 3a_2 \end{bmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

求める表現行列は $\begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 3 \end{pmatrix}$ である。

(2) $T_A(\mathbf{x}_1) = A\mathbf{x}_1 = 3\mathbf{x}_1$, $T_A(\mathbf{x}_2) = A\mathbf{x}_2 = 2\mathbf{x}_1$, $T_A(\mathbf{x}_3) = A\mathbf{x}_3 = \mathbf{x}_1$ であることに注意して

おく。 $\mathbf{x} = a_1\mathbf{x}_1 + a_2\mathbf{x}_2 + a_3\mathbf{x}_3$, $\mathbf{y} = b_1\mathbf{x}_1 + b_2\mathbf{x}_2 + b_3\mathbf{x}_3$ と表され, $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$, $\mathbf{y} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{bmatrix}$

となっているとする。

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{bmatrix} &= \mathbf{y} = T_A(\mathbf{x}) \\ &= T_A(a_1\mathbf{x}_1 + a_2\mathbf{x}_2 + a_3\mathbf{x}_3) \\ &= a_1T_A(\mathbf{x}_1) + a_2T_A(\mathbf{x}_2) + a_3T_A(\mathbf{x}_3) \\ &= 3a_1\mathbf{x}_1 + 2a_2\mathbf{x}_2 + a_3\mathbf{x}_3 \\ &= \begin{bmatrix} 3a_1 \\ 2a_2 \\ a_3 \end{bmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 3 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

(3) $T_A(\mathbf{x}_1) = A\mathbf{x}_1 = 3\mathbf{x}_1$, $T_A(\mathbf{x}_2) = A\mathbf{x}_2 = -\mathbf{x}_2$ であることに注意しておく。(1) と同様に \mathbf{x} , \mathbf{y} を $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ を用いて表しておく。

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} &= \mathbf{y} = T_A(\mathbf{x}) \\ &= T_A(a_1\mathbf{x}_1 + a_2\mathbf{x}_2) \\ &= a_1T_A(\mathbf{x}_1) + a_2T_A(\mathbf{x}_2) \\ &= 3a_1\mathbf{x}_1 - a_2\mathbf{x}_2 \\ &= \begin{bmatrix} 3a_1 \\ -a_2 \end{bmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 3 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix} \end{aligned}$$